

8月定例記者会見 会見録

8月1日(水)10:30～

8月定例記者会見に当たり、私から報告をさせていただきます。はじめに、中心市街地の魅力あるまちづくりの取り組みについての報告3件です。

まずは、資料1「つくば中心市街地まちづくりヴィジョンの策定」についてです。5月から実施したパブリックコメントを経て、中心市街地の目指すべき将来像やコンセプトを定めたヴィジョンを策定しました。パブリックコメントには36名の方から120件の意見が寄せられました。今後、市民と一緒に、戦略や計画を立てるなどの作業に入りたいと考えています。

次に、資料2「クレオ再生に関する意見募集」についてです。

市では、クレオに関する公共施設導入の可能性を平成29年度に検討してきました。現在は、市民にとって必要とされ、魅力ある施設として再生するため、市が関与する手法の検討を進めているところです。

これまでも様々なアンケートを実施してきましたが、今回は、市がクレオ再生に関与すべきかどうかのご意見を皆さまから伺いたいと考えています。

資料3は、「つくば中央公園アウトドア体験」についてです。

中心市街地を魅力あるものとするためには、大きな施設に頼ることだけでなく、遊び場やくつろげる場所など小さな取り組みを数多く展開することで、継続的なにぎわいや魅力の創出につなげていくことも大切だと考えています。

そこで、この夏、つくば中央公園で、バーベキュー、カヌー体験、水遊びなどのアウトドア体験イベントを開催します。

中心市街地まちづくりヴィジョンで示したパブリックスペースを活かす実証事業として実施するもので、つくば市と、「つくばセンター地区活性化協議会」、「株式会社ナムチェバザール」と連携して実施します。

資料4は、「まつりつくば2018の開催のお知らせ」です。

今年は、「わたしたちのまつりつくば」をテーマに、45万人の来場者を見込んでいます。8月25日、26日の2日間、多くの皆さまに楽しんでいただきたいと思います。

資料5は、「筑波山山頂ジオツアー開催のお知らせ」です。

筑波山地域ジオパーク推進協議会認定ジオガイドの案内で、筑波山頂近くに残

る自然や歴史・文化を散策するツアーを、8月5日に開催します。

最後に、茨城県からの要請で、西日本豪雨で被災した広島県三原市に、つくば市の森田明美 保健師を派遣することが決まりました。

派遣期間は8月8日から13日までで、現地では被災された方々の健康管理や感染症対策等の業務を行ってきてもらいます。

(本人紹介)

森田

大穂保健センターの森田と申します。今回、県から声が掛かりまして、被災地へ入らせていただきます。我々もそうでしたが、被災地では日常を取り戻すために、日々皆様無理をして奮闘しています。心身のケアが非常に重要な時期だと考えております。特に精神的な負担やストレスなどが体へ大きな影響を及ぼすので、被災地の方の心に寄り添いながら、できる限りの支援をしていきたいと思っております。

質疑応答

■クレオ再生について

記者

クレオ再生に関する意見募集について伺いたいですけれども、これは市が関与すべきかどうかというところに主眼が置かれている設問かなって思うんですけれども、関与する人には重大な一番大切なところでもあるかなと思うんですけれども、これホームページのみというアンケートなんですか？ほかの手段とか、もうちょっと広く聞くですとか、そういったことは考えてらっしゃるのでしょうか？

市長

今回は当座ホームページのみで考えております。それは、一つには時間的な制約の部分もありまして、やはり早めに結論を出していかないといけないという状況があるわけですが、これまでもどういうものが中心市街地に必要かとかですね、そういうことはかなりいろんな手段を使ってアンケートを行ったり、シンポジウムを開いたり、あるいは街の中で実際に皆さんに意見を聞いてきましたが、クレオの建物に対して市が関与をすべきかどうかということ直

接市民に聞く機会というのは、実はやっておりませんでしたので、そこについて、市民がまずどういう思いでいるかということ、やはりきちっと確認をする必要があるだろうということで、今回ウェブという形ではありますが。ただ、日常的に市長へのメールはじめですね、これまでのアンケートにおいても、当然自由意見等で市がこういう風にしてほしいという声は、たくさんいただいていますので、今回はウェブのみという形にさせていただいております。

記者

わかりました。市が関与すべきかどうかというのは根本的なところになってくるかなと思うんですけども、この時期になってしまったというのは、民間に任すべきといったような意見があったということなんですか。

市長

もともと、筑波都市整備としては、民間へのリーシングということを当座考えておりましたし、私どもとしてはその状況は見守っていたところではあるわけですが、それがなかなか難しいという状況になってきて、筑波都市整備としてもいろいろ事情があるでしょうから、私どもとしても積極的な関与をすべきだということは議会でも表明していますし、昨年12月の議会でも積極的な関与をという声がありましたが、2月の調査、そして今度、6月の議会、コンセプトづくりをする段階になりまして予算をいただいたわけですけども、そこでどういう金額のものが出てくるかとか、そういったことはまだこれからですが、じゃあコンセプトがまとまったから、それで一気にこのコンセプトで行きますなんていう話になる前に、一つのプロセスとして、このプロセスは外せないと考えておりますので、今まで一段一段積み上げてきている中の一つの確認という風に考えております。

記者

わかりました。もう一つ、プレイスメイキング事業で、つくば中央公園でアウトドア体験ということなんですけれども、バーベキューとか夏に向けてぴったりのことを考えられてますけれども、例えば、中央公園は公園ですから散歩されている方もいらっしゃるし、子どもとかも走り回って遊んでいる場合もあるんですけど、そうするとバーベキューとかになるとすみわけが必要になるのかなと思うんですが、そのあたりについてはどのように検討されているのでしょうか。

市長

エリアは当然、中央公園のど真ん中でやるわけではなくて、場所を区切って、木がある方でやりますので、犬の散歩されているような方たちが真ん中の方で遊ばれていても、危ないというようなことはないというように思います。

記者

ありがとうございます。

■まつりつくばについて

記者

まつりつくばについてお伺いいたします。去年、ディズニーが来たとかそういうのがあったと思うんですけど、そういうので今年の特徴があるのかどうかということと、もう一つ、今年の夏は非常に暑いというのが注目されていまして、この時期はまだわからないんですけども、45万人の来場者を見込んでいるということで、熱中症対策とか考えていることがあれば教えてください。

市長

去年はディズニーという一つの大きなものがあったわけですけども、そういう中で評価委員会の皆さんからも今後どういう方向で行くんですかっていうことをご提示をいただいていたりました。そういう中で、今回まず行ったのは今までずっと同じキャッチコピーできていたものを今回、いろいろな検討チームを作ってもらって少しだけ変更して、「わたしたちのまつりつくば」というキャッチコピーになりました。ここにあるのは、自分たちの祭りであって、自分たちで参加をしながら、もう一度まつりつくばというものを考えていくきっかけにしていくことも必要だよねというニュアンスも込められておりますので、今年このコンセプトの中で、大きな目玉に頼るのではなくて、今までの取り組みも今回もう一度やってみる中で、原点にかえるような祭りになるといいなど、私としては考えております。熱中症対策につきましては、もちろん去年も関係機関さまざまに協力してもらいながら万全の体制をとっていますので、それを継続していくことになると思いますが、会場での呼びかけ等は、気温を見ながら湿度を見ながらですけども、当然きちっと行っていく必要があると思っています。

■クレオ再生について

記者

クレオの件なんですけれども、市が関与するべきという点が意見募集のポイントになっているんですけれども、議会とか市民とか意見はいろいろあると思うんですが、リーダーである市長としては、できるだけコミットしたいんですか、それともコミットしたくないんですか。方向性がちょっと見えないんですけれども。

市長

これまでも答えている通り、関与をする必要があると考えております。ただ、例えばですね、市民が誰もそんなこと望んでいないということになるのであれば、やはり方向性として違っていきますので、そうなれば、例えば 9 割が反対していたとかですね、市民が望まないということですから、そこは一つの判断材料になっていくんだと思います。今までいただいているアンケート等からすれば、そういうことにはならないんじゃないかなという風には思っておりますが、そういう思い込みで行政を進めることほど危ないことはありませんので、そう意味ではプロセスと考えています。

記者

もう一点なんですけれど、半年くらい前だと思うんですが、クレオの旧西武のフロアについて、まちとして何か活用、できれば使いたいということをご依頼といったときに、追っかけるようにして飯野副市長が、あれは区分所有というのじゃなくてあくまでも賃借りという意味ですからね、ということですね、その時の印象を弱める努力をなさったわけなんですけれども、つまり予算的にあまりコミットしたくないと、あくまでも区分所有になるとオーナーの一部になっちゃいますからあれなんですけれども。市の幹部の中には基本的には予算措置を大きく伴うようなことは避けたいという腹があるのかなというイメージである時は聞いたんですが、予算措置についてはあれですか、もう、市民がコミットせい、ということになれば、ある程度のことを考えねばいかんということですか。

市長

あらゆることが選択肢に入っているという中には、全部購入するというのも議会の中でも答えていますので、そうなれば当然多額の金額になると思います。ただ、今コンセプトづくりの中で試算をしてもらっているわけなんですけれども、そこではコストをいくらかけて、これからいくらかかって、それに対してどの程度の収入が見込めるのかということを出していただいておりますので、例えば、わかりませんが 10 億かけて 20 億入ってくるということになればいいん

でしょうし、50億かけて10億しか入ってこないというんであればできないでしょうし、そういうようなことも含めて今、試算を正確に、できるだけ正確なものを出してもらおうようにしているということです。

記者

クレオのアンケートなんですけど、これはいつからやる、いつまでなんでしょうか。

市長

何日から何日までですか。

学園地区市街地振興室長

アンケートの期間としましては、7月29日から始めておりまして8月15日までとなっております。

記者

わかりました。あと、後でホームページを見ればわかるんですが、質問項目としてはこの3つのみを聞いているということでもいいんですか。クレオの跡地に望む施設と市の関与と自由意見の3つ。

市長

それに加えて、属性の方も。

記者

当然それはありますよね。仮にですけれど、さっきも質問が出ていましたけど、やっぱり関与すべきでないという意見が多数を占めた場合は、市長が12月議会で市の関与が必要である旨の答弁をなさっていますけど、そうすると齟齬が生じるだろうと。この辺、どのくらい尊重するのかっていうのが、よく住民投票でもいろいろ問題になるところなんですけど、こういうのやったのはいいんだけど結局拘束力はないので、それは関係なく関与しますということなのか、いやいや法的な拘束力はないけれども再考する必要があるのか、アンケートが持つ拘束力というのはどれくらいのものだと考えていらっしゃいますか。

市長

拘束力という文脈で言えば、ない、わけですけれども、判断材料にする、判断の参考にするということだと思います。単純に数だけの話ではなくで、ここで

自由意見もいただいていますので、そこでどんな意見があるかといったようなことも見る必要があるとは思っています。

記者

「負担額にもよるが、一定の財政負担をしても市が関与すべき」というのは親切にも思えるんですけど、負担額が見えてこないと、さっきの10億円なのか50億円なのか、どうかなと悩んじゃう方もいらっしゃるかなと思ったんですけど。これは、例えば12月に、クレオのリサーチを委託していると思うんですけども、それがどれくらいかかるかで費用を見てくると思うんですが、その後に再度こういった市民アンケートを実施するっていうことなんですかね。

市長

少なくとも額が出た時点で、それは何かお示しを当然しなくてはいけないという風に思っています。それを次にどういうステップでとるかということはまだ決めていません。

記者

これはこの前お示しいただいた大規模事業には該当するんですか。10億円以上だった場合というのは。

市長

そのあたりは手続き的にどうかという部分を見ますけれども、今回の場合の緊急性とかそういう部分も含めて、内部で調整しなくてはいけないのかなと考えております。

記者

緊急性が高いということであれば、大規模事業の方針の対象にはならない可能性もあるということですよ。

市長

可能性もあるということです。

■プレイスメイキングについて

記者

分かりました。あと、中央公園の関係なんですけど、バーベキュー面白そうだ

など思ったんですが、具体的に何人分くらい収容が可能とか、テーブルとかがって何席くらいあったりするもんなんですか。

市長

ここに出ていますが、詳細担当課から。

学園地区市街地振興室長

テーブルは10席用意してまして、10時から3時間の部と14時から3時間の部に、2回に分けて予約を取っております。

記者

分かりました。あと、地図を見てると、エキスポセンター前の大きな池全体でカヌーと水遊びが楽しめるというイメージなんですか。

市長

あそこは2つに分かれているんですけども、カヌーは広い方で、この間青年会議所のイベントなどできれいにした狭い方で水をじゃぶじゃぶするような遊び場として分けて考えています。

記者

カヌーと水遊び場が、確か池自体は分離してはいないですよね。カヌーがわかって水遊び場の方に行っちゃうと危ないかなって。

市長

分離しています。

記者

しているんですか。

市長

ここにギャラリーがありまして、ここに橋が架かっているんですけども、そこでこっち側が水遊び場、広い方がカヌーというような感じですよ。混ざることはありません。

■クレオ再生について

記者

クレオの件で2点お伺いしたいんですけれども、先ほど市長がおっしゃっていた、いくらかけたらいくらバックがあるのかってところの試算っていうのは6月の議会であった調査費のことかなと思ったんですが（市長 はい）、その調査って、スケジュールってどうなっていたんでしたかっていうところをまずお伺いしたいのと、今回、関与すべきかどうかっていうアンケートということなんですけれども、筑波都市整備の状況の何かが難しくなっていたというのが最初にあったんですが、筑波都市整備としての意向であったり市との調整っていうのはどうなっているのかというところを改めてお伺いしたいと思います。

市長

まず、コンセプトの方はできる限り早くまとめていただきたいなと思っているんですが、いつまで、というのがどこまで急げるかというのが、今調整をされているところですので、何月何日に出ますというのは今ここで申し上げることはできないと思っております。筑波都市整備は、これまでお伝えしている通りですけど、売却の意向がありますので、それを市に売却できるのかどうかというのは当然気にはしているところだと思っております。筑波都市整備としても、当然ほかの皆さんともお話ししている状況にはあるという風に認識しています。

記者

市が介入すべきかどうかというのは市側の話になると思うんですけれども、筑波都市整備として介入を受け入れるかどうかは筑波都市整備に最終的には決定権があると思うんですね、所有者なんで。そのあたりの調整というのは、今どのようにされているのでしょうか。

市長

当然、市とさまざまなことを一緒にしている事業者ですので、我々も密にコミュニケーションとっておりますし、私どもとしての意向は尊重はしてもらえるという風に考えております。

記者

ある程度、市として介入の方向が、アンケート通して本決まりになった場合には、受け入れる土壌というのは筑波都市整備の方もあると。

市長

それは常時話し合いをしていますので、これでだめですと言われるとなかなか困ってしまいますね。そういうことはないという風に思っております。

記者

コンセプトの話は調整中ということですが、今年度中にはある程度まとまると考えていいのでしょうか。それとももう少し早く。

市長

今年度中なんていうよりはもっと早いペースで（記者 今年中くらいに？）今年中にはまとめていただかなくちゃいけないですし、判断をほんと早くしていかなくちゃいけないですから、そうかけられない。数か月という風に考えております。

記者

アンケートが 8 月 15 日までということで、これがまとまる時期にもよると思うんですが、そのタイム感としては。

市長

これはまず市民の、クレオという建物に対するコミットメントの意思を確認するものですので、コンセプトとしてはコンセプトで、同時並行的に動いていくものだと思います。

記者

アンケートは関係なく、コンセプト作りは進めるということですか。

市長

当然作業としては進めてもらいます。そこに関与、自由意見等はあるでしょうから、そこは随時共有をしますけれども、ローデータとして共有するような形になるのかなと思います。

記者

コンセプトは今年中の早い時期として、クレオに関する意見募集は 8 月 15 日までで、まとまるのはいつ頃ですか。

市長

意見募集を整理するということですか？それはそんな時間かからないんじゃないですかね。まとめて整理するかそのままか出せばいいと思いますので。

記者

8月中とか9月中とか。

市長

9月上旬ぐらいに出せばいい。

記者

意見を募集すると、それから、先ほどの五十嵐市長のお話ですと、最大限コミットすることもありうるということなんです、最大限コミットするということは土地建物を市が買い取るということだと思うんですが、そういう意見を聞くにあたって、土地建物を買うんだったら少なくとも予算措置がどれくらいかかるのかな、というイメージがわからないと市民の方も全面的にコミットしようという市長に命令は出しにくいかなと思うんですが。筑波都市整備の方は内々には買いたい業者に対して、うちとしてはいくらくらいだったら売るよと、いうオファーは出しているわけですね。それに対して、買い手の方はもうちょっと安くしてくれという交渉が今進んでいるわけですけど、少なくとも筑波都市整備が、例えば40億だったら土地建物売りますと言ってますといった情報開示しないと、市民としてもなかなか考えにくいのかなと思うんですが、その辺はいかがですか。

市長

このアンケートでもその旨は留保をつけていまして、「金額にもよるが」とつけたのは、やはりあんまり無責任な数字を出してそれが正確にしている試算からずれてしまったら困ってしまいますので、今回はこういう形で関与についておおよその方向性を確認して、正確な試算が出たらそれをすぐ開示をしていくというプロセスを踏むことになるんだろうと思っています。

案件以外の質問

■「むすびF E S」への参加予定について

記者

8月17日に障害者の方のむすびフェスというイベントがあつて、そちらにつくば市長と職員が障害者とランウェイを歩くというようなことを聞いたんですけど、そういう用意って本当にあるんですか。

市長

はい。主催者の方がいらっしゃいまして、障害のあるなしにかかわらず、あるいは、いろいろな事を含めたダイバーシティを推進したいので、出てくれないかというお話がありまして、日程調整して、どれぐらいなのか分かりませんが、歩く予定になっているのは確かです。

記者

実際市長、どれくらい歩くか分からないと思いますけれど、歩くことは歩く？

市長

はい。歩く予定です。

記者

あと、市の職員の方、人事課と消防本部の方も歩くと聞いたんですけど、本当かどうかというのは失礼ですけど、素人の方が行くとしたら、行き違いになってしまうんでないかと思ったので、もし、いやそうではないとかあれば。

市長

消防の職員ももちろん行くと思いますが、職員にとっても多様性を感じたり学んだりするいい機会だと思いますし、きっとそこで話されていると思いますが、何名体制か私はそこまで把握していませんけれど、行くはずですよ。

消防長

はい。

市長

何名くらい。

消防長

4名です。それぞれが救急隊の服装、救助隊（レスキュー隊）の服装、災害時に着る防火衣の格好及び通常の執務服を着てファッションショーのエスコートをすることでの参加を実行委員長と調整させていただいています。

市長

ありがとうございます。そういうことです。

記者

人事課の方っていますか？

人事課長

人事課では、未来構想等ワーキングチーム等の若手職員（福祉関係）がいますので、そこから3名出席をさせていただく予定です。

記者

ありがとうございました。

■ブロックチェーンについて

記者

先日ブロックチェーンを使った投票について話がありましたけれども、他の投票とか公的な活用は難しいと思いますけれど、その他の投票についても活用されていく予定というのはあるのでしょうか。

市長

現在の段階で、どれをこうするかという予定はありませんけれども、当然そういったことも視野に入れて、今回初の取組としてやりますので、世界の人が期待しているのはスマートフォンで投票ができるようにするという状況まで持つて行くことではと思うけど、それが一つのまた民主主義の形を、新しい形を選挙以外でできるという可能性も秘めていまして、そういったことをやっていきたいと思っていまして、ちょうど昨日、国でマイナンバーカードをスマホに掲載できるするという構想予定があると示されましたので、そういったものと合わせていくと非常にいろいろな可能性が出てくると思います。

記者

まだまだこれからの話だと思うんですが、市長としては、例えばこんな分野に有用なのではとか心持ちがあれば。

市長

私がイギリスの大学院に行ったときに電子政府という研究をしていて、その研究チームにいたんですけれども、15年以上前ですか。当初からイーデモクラスはあったんですね。ただ当時の技術では、セキュリティの問題であったり、スマホだってスマホとは呼べないような、いわゆるガラケーのようなものの時代でしたから、みんなそういったことを話題にはしていましたけれど、そんな時代が本当に来るかどうかというのは、半分見えていなかったんですけれども、本当に究極的には、市民が意思表示や意思決定を示せるようになって、それを情報として信頼性を担保できれば、という意味でいえば、本当に可能性は無限であると言えますし、すごく先の話までしてしまえば、例えば住民投票もそうですし、議会もひょっとしたら形が変わるかもしれない、という可能性を秘めているかもしれませんし、それは議会制民主主義というものはそれで非常に意義があるので、そういった議論をしていくきっかけになるのかな、と。どっちが良くて、どっちが悪いとかの話ではなく、新しい民主主義を作り得る。もう少し短いところで言えば、市民サービスでのアンケートとか、市がやっている決裁システムの在り方を変えていくとか、スマホから納税を簡単にしていくとかという使い道はありとあらゆる物があると思います。そういったものをどんどん私たちとしては、企業の皆さんや事業所の皆さんから提案をしていただいて、そのためのプラットフォームを提供していこう、我々はその実験台となろう、というのがつくば市としての立ち位置ですけれども、決裁とかは恐らくここ数年で劇的に変化していくと思います。

記者

ありがとうございます。

(終了)